

# BULLETIN Kyushu BRANCH

The Japan Institute of  
Architects Kyushu branch

# JUN.2023

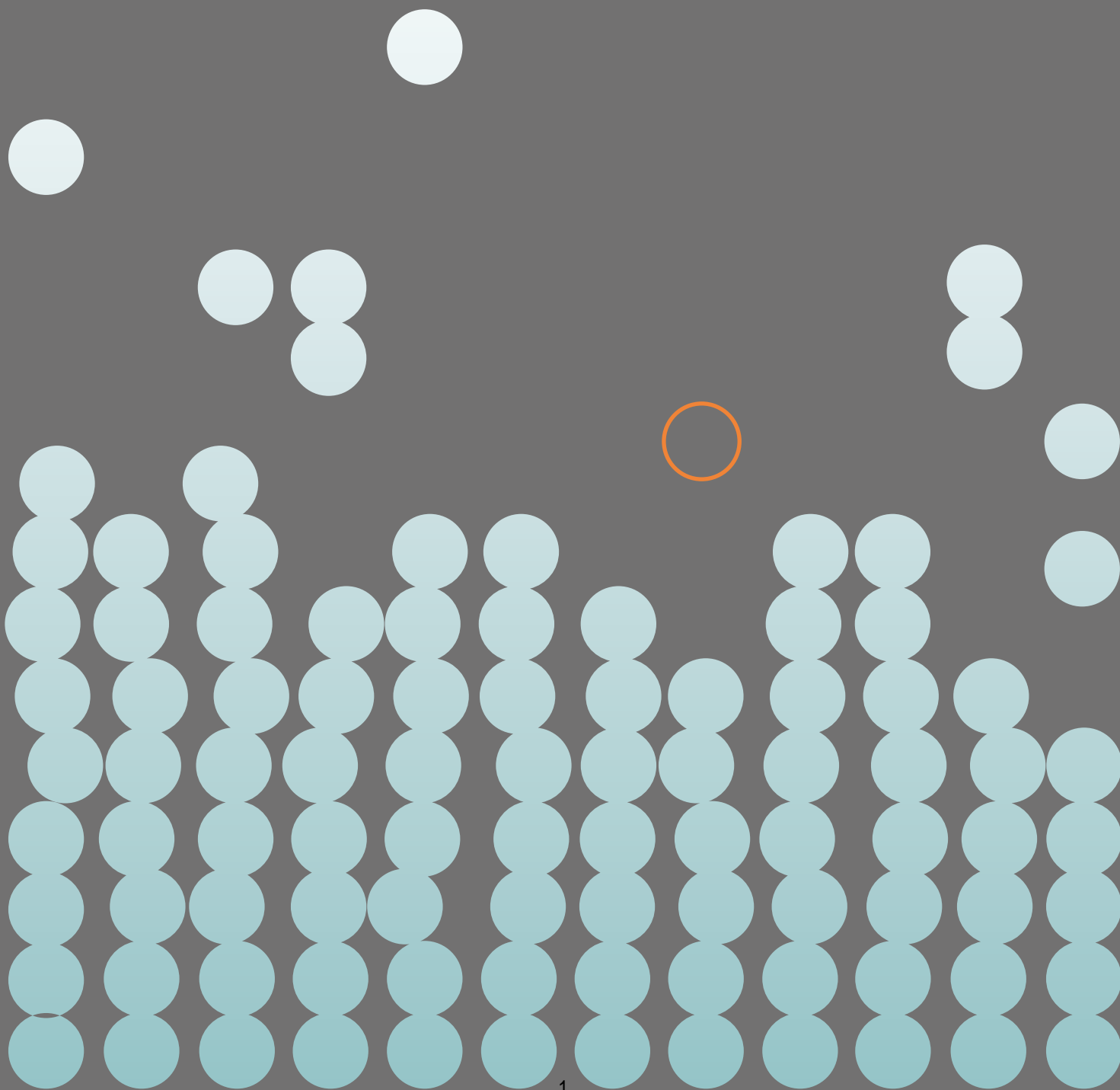
九州で活躍する建築家のための情報誌

## Contents

支部長挨拶	P2	よかもん	P16-17
とくべつきこう	P3-5	わさもん	P18
もよおし	P6-10	協力会つうしん	P19
とびっくす	P11-13	委員会報告	P20-22
あのところ	P14-15	編集後記	P23



公益社団法人 J I A  
日本建築家協会九州支部



## 支部長挨拶



松山 将勝（九州支部長）

夏の到来が間近に感じる今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

JIA九州支部は、5月20日（土）に2023年度の通常総会を開催致しました。全ての議案が承認され、滞りなく終了しました事をこの場を借りてご報告申し上げます。

私自身も九州支部長を拝命し丸3年が経ち、今年度が最終年となります。「未来への結束」という掲げたテーマは、少しずつ形として見え始めています。これもひとえに共に歩んでくれるJIA仲間のお力添えがあってこそだと感謝の念に堪えません。総括となる残りの1年、全力で責務を果たして参りますので、引き続きJIA活動にご支援ご協力をいただければ幸いです。

総会後には、会員集会を開催致しました。今年の会員集会は少し趣向を変え、8地域会にそれぞれの地域会自慢を発表していただき、本部理事を歴任された佐々木信明さん（長崎地域会）、柴田真秀さん（熊本地域会）、作田耕一朗さん（宮崎地域会）の3名に審査員を務めてもらい、優勝は大分地域会、準優勝は鹿児島地域会となりました。地域会自慢という幅広いお題に対して、地域会が長年取り組んでいる活動や、街の歴史や建築の変遷、または若手建築家を育てていく環境づくりから地域の食材自慢まで、発表内容も多岐に渡り大いに盛り上がりました。通常総会と各地域会の発表内容は、この号の「もよおし」で佐々木寿久さんがレポートしていますのでぜひご覧ください。会員集会后には懇親会を開催し、今年度の結束を誓い全てのプログラムが終了致しました。80名を超える方々にご参加いただき、心から感謝申し上げます。

6月23日（金）には東京の建築家会館にてJIA本部総会が開催されました。5月にコロナが5類に移行した事から、今年の総会は入場制限無しの集合形式での開催となりました。本部総会も全ての議案が承認され、滞りなく終了しました事をここにご報告致します。

本部理事会や全国の会議体で議論しておりますと、日本建築家協会が果たすべき役割や抱える課題の全容が現れてきます。建築家資格制度（登録建築家）においては20年前の2003年から運用開始され、これまでいくつかの難局を経て現在は約1,500名の建築家が登録されています。JIAはUIA加盟の建築家集団であり、正会員は全員が建築家の客観的要件すなわちUIA基準を満たす責務があるとされており、これに固執するばかりに他団体との合意

に至らなかった過去の反省も含め、登録建築家の未来像を今一度示さなければならない局面にある事を理事会で確認し、この問題の議論が本格化しています。

また、会員減少問題も大きな課題です。これはJIAに限った事ではありませんが他団体も同様の課題を抱えており、あの手この手と入会促進を図っているものの、設計団体に所属する事の価値を若者が感じない以上、歯止めがかからない状況は今後も続いていくでしょう。

これからの時代は、数は力なりから質を高めていく事が重要だと考えています。その為には若い世代が自らJIAに入会したいと思える集団に変わっていかなければなりません。JIAに所属する事の価値を、私たち自らの行動や活動を通して示していく。その先にJIAの未来が開かれていく事を信じて、これからも精力的な活動を続けて参ります。

ここからは九州支部の話題に移ります。前回のブルテンでご報告したとおり、来年の建築家大会2024（通称：全国大会）は九州での開催が決定致しました。通常総会前に開催された役員会で実行委員会が発足され、開催地や開催日も含めてこれから本格的な検討が始まります。2010年北九州市で開催された全国大会から13年ぶりの九州開催となります。この機会により一層九州支部が結束し、記憶に残る大会にしたいと考えておりますので、会員の皆様のご支援ご協力をお願い致します。

今年の全国大会は東海支部が主体となり常滑市で開催されます。全容については、東海支部実行委員長の浅井裕雄さんから、この号に寄稿いただいておりますので、ぜひご覧ください。

昨年からは準備を進めてきました、九州建築新人賞は今年から始動致します。学会が主催する建築九州賞に今年から新人賞の枠ができた事は想定外でしたが、JIAの独自性を打ち出し、若手建築家の登竜門となるべき建築賞に育てていきたいと考えています。

支部や地域会では、今年度もさまざまな事業が予定されています。最終年となる今年度は、より精力的に出向いて参りますので、多くの皆様とお会いできる事を楽しみにしております。

最後になりましたが、梅雨時期の季節の変わり目でございます。会員の皆様におかれましては、どうぞ健やかにお過ごしください。

## 「JIA建築家大会2023東海in常滑」大会のつくりかた



浅井 裕雄  
(JIA建築家2023大会実行委員長)

### JIA、みんなでつくる大会として、「小さくて大きな大会」

今大会は、東海支部がホストとして開催します。大会をつくりあげるのに、2つの視点で組み立てを始めた。

1つ目は、「小さくて大きな大会」を目指す。本来、全国大会は支部大会の延長線上にある大会と思っている。そこで、各コンテンツは、地域に根ざしたものであり、地域の人を巻き込むことが重要と考える。しかし、こうしたイベントを議論すると、シンポジウムなどには、メジャーな人を呼びたくなるのも当然で、我々もそのメジャーな人に振り回された。あせるなか、ふと立ち返って考え、地域の方を掘り下げてみよう、それは皆さんが知らない優秀な方はたくさんいて、その方々が登壇することで、地域性やそこでの営みまでが、伝わり、考えていただける。これが大会に参加する建築家により有益だと思う。

2つ目の視点。JIAみんなで大会をつくれなにか。

ホストとゲストの関係より、一体的な関係へ構築するために、沖縄大会のプレイベントを「建築家大会ウィーク」として、各支部や枠組みを超えたイベント広場として活用していただきたい。大会テーマに沿ったイベントをみんなでつくることで、より本大会が濃密なものになり、何より、会員同士のネットワーク作りになる。みんなで大会をつくろう！

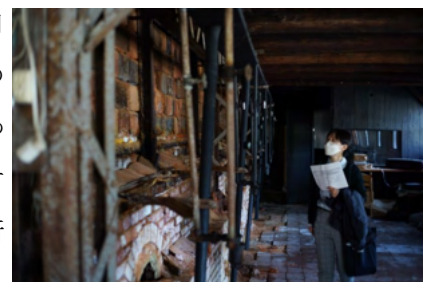
「小さくて大きな」とは、小さな組織や小さな地域だからこそ、見えてくる関係性を濃密なものに広げていくことで、大きな大会につなげようと試みです。

人口が減少していく時代の大会づくり。持続的に大

会をつくることだけでなく、さらにアップグレードできるつくりかたとして、今大会を企てます。次の大会は九州支部と聞いていますから、さらにアップグレードすることを期待するとともに、お手伝いもいたします。もう一つ、地域との関係性について。地方都市で開催できるメリットは、よく顔が見えることだと思う。多くの時間を地元行政や地域のひとと会わなくては、大会がつくれられません。その関係を大会が終わると同時に無くなるのはもったいない。今回の開催地、常滑では今後もJIAとの関係を継続できるよう、緩やかなまちづくり協定を模索中です。JIAのスローガン、「たよれる建築家」にピッタリ。毎大会ごとに地域によりそうJIA、その関係が見える化できれば素晴らしいと思う。持続的で濃密な関係をもった大会と一緒に作りましょう。

### 大会会場について

開催地「常滑（とこなめ）」は、六古窯の一つで、焼き物の世界的産地でした。産業構造の変化で衰退していく街の痕跡とともに、大会を開催したいと思う。会場は大きく3つのエリアで構成されています。メイン会場は坂倉建築研究所が設計、1983年竣工の「常滑市民文化会館」。次に各種会議やミニシンポジウムの会場予定のやきもの散歩道エリア。ここでは、「旧青木製陶所」、「旧丸利陶管」などの窯と周辺建屋をつかって会場とする。旧青木製陶所は一部民間利用さ



旧丸利陶管

れている。2階部分の多くは開放されていて、窯周辺も展示やミニシンポジウムで使う予定。このエリアは古くから窯業が展開した理由の一つ、なだらかな地形がある。これが、「あな窯」を発展させた丘陵地帯。今も瓦屋根のつながる風景が望める。



旧青木製陶所



瓦屋根のつながる風景

3つ目は、INAXライブミュージアム・陶芸研究所エリア。INAXライブミュージアムはタイル博物館をはじめ、土管工場の窯・煙突と建屋を資料館とし、おすすめのテラコッタパークではリアルな陶壁の展示が見られる。陶芸研究所は1961年竣工、設計は堀口捨己。ほとんど当時のまま使われており現在、登録有形文化財として国から答申されている。この陶芸研究所は、INAXの創設者である伊奈長三郎が同社の株15万株を常滑市に寄附、その運用資金をつかって建設された。現在も常滑市はLIXILの大株主である。建てられた場所は、常石神社の森の縁、奥条という。この地区には山車があり祭りが地域の人々をつないでいる。丘の上に陶芸研究所は常滑やき最盛期には黒煙の間に薄紫に浮かび上がっていたという。この3会場を移動し常滑を体感する大会とします。歩くことで見つかるモノが必ずあると思う。



常石の山車



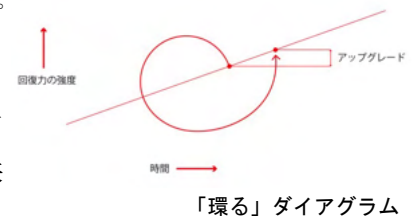
会場周辺・散策マップ

## 大会テーマ「環る」

地球環境の変化は大きな災害を呼び、国際情勢や経済環境の変化により新たに生まれる価値は有用な過去までも消し去り、時に地域や人々のつながりまでも壊してしまいます。これは人為によって **まわり、めぐっている** とも捉えられます。同じところに **かえる** ことができないとすれば、今、必要とされるのは、地域や街や人々を **快復させる力** なのかも知れません。

開催地「常滑（とこなめ）」は、六古窯の一つで、焼き物の世界的産地でした。産業構造の変革により役割を終えた煙突や窯が壊され、往時の風景は消えつつあります。この街が、この地が育んだ文化が、過去を継承しつつ、**よみがえる知恵** を、ここ「常滑」を舞台に、日本から地球へと拡げて考えてみましょう。

「環る」復元（もとにもどす）ではありません。回復するにはその強度と時間が絡み。元の時点には戻りません。そのギャップがアップグレードされたことになる。そんな街や建築の未来を考えよう。



## 大会を開催する意義

建築やまちづくりのことをテーマにそって真摯に議論すること。全国の建築家と交流を深めること。これ

らも意義であるが、大会を主催することの意義として、企画をする楽しさがあるのではないか。皆さん、一緒に企てませんか。まだまだ、やるべきことはある。今からでも間に合う。是非いっしょに。

## 大会概要

### 建築家大会ウイーク

10月12日から11月8日の4週間 webを中心とした、各支部・全国会議主催のシンポジウムなどの開催予定

**本大会** (会場は6月号を御覧ください)

11月9日 (1日目)

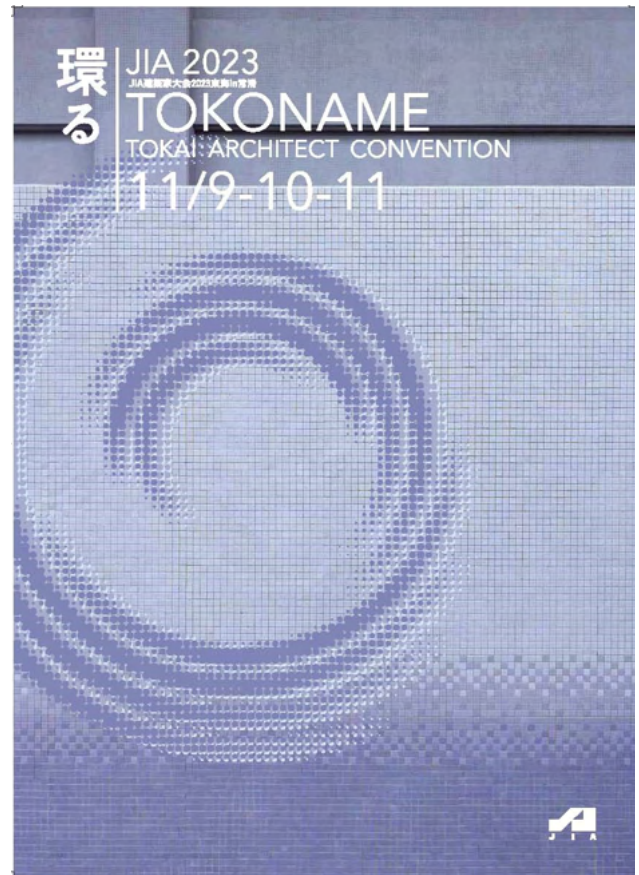
西尾コンペシンポジウム・あかりコンペ・INAXライブミュージアム特別見学・ウエルカムパーティなど

11月10日 (2日目)

常滑街歩き企画・大会式典・メインシンポジウム・レセプションなど

11月11日 (3日目)

エクスカージョン



# 環る

JIA 2023  
**TOKONAME**  
TOKAI ARCHITECT CONVENTION  
11/9-10-11

**TOKONAME**  
常滑市

**テーマ「環る」**

地球環境の変化は大きな災害を呼び、国際情勢や経済環境の変化により、新たに生まれる価値は有用な過去までも消し去り、時に地域や人々のつながりまでも壊してしまいます。これは人為によってまわり、めぐっているとも捉えられます。同じところにかえることができないとすれば、今、必要とされるのは、地域や人々を快復させる力なのかも知れません。

開港地「常滑(とこなめ)」は、六古家の一つで、焼き物の世界的産地でした。産業構造の変革により役割を終えた産地や家が壊され、往時の風量は消えつつあります。この街が、この地が育んだ文化が、過去を継承しつつ、**よみがえる知恵を、ここ「常滑」を舞台に、日本から地球へと広げて考えてみましょう。**

---

**JIA 建築家大会2023東海in常滑 大会プログラム概要**

**本大会 11月9日[木]から11日[土]**  
 テーマ「環る」プラスに紐じて交流させる力を考える3日間。  
 11/9: シンポジウム、各種会議、ウエルカムパーティなど  
 11/10: 大会式典、メインシンポジウム、レセプションなど  
 11/11: エクスカージョン

**建築家大会ウイーク 10月12日[木]から11月8日[水]**  
 webを中心しテーマに沿った議論を各種会議や地域の人たちを交えて考える4週間。小規模だけど密度の高いイベントを企画中。これらの企画は、各支部からのアイデアを受け付けます。

**会場について**  
 大きく3つのエリアで構成しています。

- 1. メイン会場周辺エリア**  
 ■常滑市民文化会館  
 各種シンポジウム、大会式典、エクスカージョン(空港前)など。
- 2. やきもの散歩道エリア**  
 ■常滑の産地産家のある歴史を体験できるエリア  
 白青木製陶所、田丸利陶管などと常滑産家の跡地をつかった会場。  
 各種会議、シンポジウムなど。
- 3. 陶芸研究所・INAXライブミュージアムエリア**  
 ■常滑の文化と歴史が学べるエリア  
 陶器地蔵作品「陶芸研究所」当時のままの姿を残しています。(登録有形文化財指定申請中)  
 INAXライブミュージアムは家のある広場で陶管の展示と保存。(登録有形文化財指定(近代産業遺産))  
 ツエカカム(バーチャル)や各種会議、シンポジウムなど。  
 プログラムの詳細は決まり次第ホームページなどでお知らせします。

撮影: 池田 洋行

主催 公益社団法人 日本建築家協会  
 お問合せ 公益社団法人 日本建築家協会東海支部  
 名古屋市中区栄4-3-26 昭和ビル  
 shibuija-tokai.org

## 2023年度(公社)日本建築家協会 九州支部通常総会



佐々木 寿久 (九州副支部長)

築家大会九州については実行委員会を立ち上げ詳細を詰めていく考えである旨を報告がなされた。また2023年度予算についても報告が行われた。

## ■通常総会

2023年5月20日福岡市、共創館にて通常総会が行われました。

文字通り、通常ということに特別な思いが湧いたのは皆様も同じだったと思います。2020年からの3年間、緊張感を持ち続けるには余りにも長い時間でした。松山支部長の体制になり4年目を迎える今年度、大勢の総会参加者を前に、活発な発言が相互にできる久しぶりの特別な総会でした。

総会開会宣言に続き、松山支部長は4年ぶりの規制の無い総会開催について思いを述べられた。続いて2022年度の事業に触れ、北福岡地域会（北九州市）で開催された九州支部大会、熊本地域会（南阿蘇）開催の建築塾、そして九州災害ネットワークの立ち上げをできたことを各地域会・各建築団体への感謝と共に報告された。また今年度は九州支部の経緯ある事業の強化と共に「JIAの価値向上」と「次世代へつなげていく」使命を今年度も強く進めていくと述べられた。

続いて、議案（2022年度事業報告・収支計算等・監査報告・規約改正）の進行がなされ全て承認された。

2023年度の事業報告について松山支部長より、スローガンに掲げた「未来への結束」を軸に2023年度も進めていく考えであること、活動方針として広報の更なる充実、熊本地震の総括事業（記録誌）の完成、建築塾（鹿児島地域会）・地域交流会（長崎地域会）・デザインレビューの開催、九州建築新人賞の新設、建



通常総会風景

報告議案の最後に、本部理事交代の報告がなされた。任期満了にて退任される作田本部理事より【この2年間で振り返り、厳しい時期ではあったが本部での会議など大変勉強になった】と挨拶がなされた。松山支部長より感謝状と記念品が贈られた。新任の下山本部理事は【支部長を支えていく】と挨拶をされた。

2023年度のスタートを対面で開催できたことは、大変意味があることでした。

## ■会員集会

今年度の会員集会は【地域会・地域自慢】をテーマに各地域会に発表頂きました。各地域会の特色があり、切り口も様々。真面目にそして笑いも含め良い集会でした。会場では発表に賞も与えられ順番もなんとなく付けられました。しかしここでは触れないでおき

ましょう。各地域会の発表を少しだけ紹介します。

・北福岡地域会

北福岡は豊かな炭田を抱える筑豊エリアを発端に、明治期以降の八幡製鉄開業と若松や門司の海運業



北福岡地域会 プレゼン資料

が発展していき、今に続く建物群が建築されていきました。産業的に深いつながりのある筑豊と北九州の関係の中に、アーリーモダン建築が幅広く広がった北福岡の地域性を見ることができます。また食文化も幅広くシンプルで価格が安くまさにファストフードから、フグや独自性の高い和食まで「おいしい」ものが多い印象があります。

・福岡地域会

福岡地域会は人が自慢ということで、入会準備中の二宮設計の二宮隆史氏による自作発表を行いました。作品は福岡市中央区にある鳥飼八幡宮の拝殿。建物の格となる石柱と茅についての説明がなされ、翌日には建築物の見学会も行



福岡地域会 プレゼン資料

ました。対面でしか成立しない企画です。今後の人をつないで紹介していきます。

・佐賀地域会

サンライズパークおよびSAGAアリーナがOPENしました。来年行われる2回目の国体に向けて、8500席の多目的アリーナが建設され、設計監理には佐賀地域会のメンバーも携わっています。そして、佐賀市の城下町

にはたくさんの歴史的な水路が残っている地域でもあり、佐賀地域会



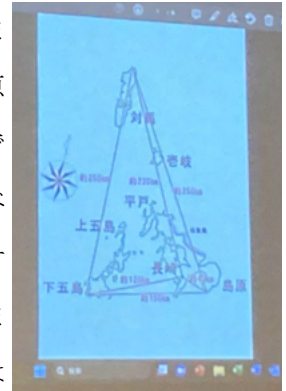
佐賀地域会 プレゼン資料

は、学生や市民と共同で水路空間を魅力的に活用する取り組みを進めています。

・長崎地域会

長崎の食を題材に県全体へ文化の広がりがつながりと捉えた発表を行いました。例えば南北300km弱の距離をもつ同県の中でも最北の対馬と南部の島原で食べ

られている「かすまき(とらまき)」。また、サツマイモが原料の麺の「孝行麺」は対馬で食され、島原では「ろくべえ」として呼び名は違いますが同じ食文化となっています。距離はあれども食文化は



長崎地域会 プレゼン資料

同県の中で繋がっていると人のつながりも感じます。

・大分地域会

大分地域会がサポートしている若手建築有志「+A(プラスエー)」の設立経緯やJIA大分地域会との関係、現在の活動などを紹介しました。+Aが大分地域会の若手育成の一助としてあることは大変意味のある事です。

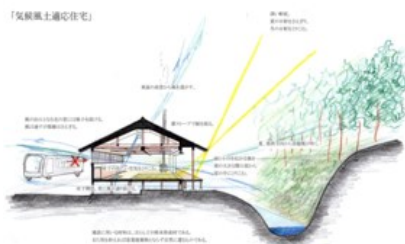
JIA+Aにも今後注目していきます。(今回号に詳細を掲載しています。)



大分地域会 プレゼン資料

・熊本地域会

熊本地域会員の皆さんを、林田から見たそれぞれの個性を一言で表現しながら作品を交えながら紹介してきました。紹介した作品はリモート作品展として支部HPの熊本地域会の欄に紹介してあります。個性ある地域会会員皆さんと一緒にますます熊本を盛り上げていきたいと思ひます。熊本「愛」が詰まっています。



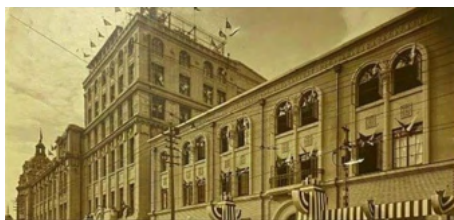
熊本地域会 プレゼン資料

・宮崎地域会

建築関連団体との連携を深めていきたいとの想いの中で、建築三会共同事業として何か行なえないものかと2017年度に建築士会、建築士事務所協会と事前協議を行いました。そこから2018.07.01 JIA新人賞を受賞した建築家をお招きしての建築セミナーを、建築三会共同事業として開催しました。これまでに4回「建築セミナー」行っています。2020年からはJSCAも加わった建築四会共同事業となりました。

・鹿児島地域会

今回のオープンレクチャーの予告編を動画で案内しました。岩田幸千会員による「鹿児島の近代建築その一部を解き明かす」は鹿児島建築の礎となった明治から昭和初期の近代建築を、設計者の相関関係やエピソードなどを交えた内容で、故郷の近代建築を見つめ直す機会となるレクチャーで



鹿児島地域会 プレゼン資料

す。又、次回建築塾の案内も兼ねて指宿海岸WSのスケッチ動画も公開しました。

■九州支部・福岡地域会 合同懇親会

役員会から始まり総会・会員集会を終え一日の最後に懇親会が催されました。80名を超える皆様との飲食を伴う会も、本当に久しぶりで会話が弾みました。

懇親会の冒頭2023年11月開催、【JIA建築家大会2023 東海IN常滑】のPRに小田義彦さん(大会委員長)と、浅井裕雄さん(大会実行委員長)が参加されPR動画が放映されました。大会テーマでもある【環る】は、「地域環境の変化や国際情勢・経済環境の変化により消し去られる価値、そして人々のつながりまでも壊していく。今重要なことは地域・町・人々を快復させる力だ。以前焼き物の町として栄え、その役割が終わったと思われた常滑から今に継承されている文化・よみがえる知恵を発信していく。」との趣旨が説明されました。11月が楽しみになりました。

この楽しい時間である懇親会がまた来年、そしてずっと開催されることを望んでいます



左：懇親会風景

右上：松山支部長の挨拶 右下：浅井大会実行委員長の全国大会PR



## JIA支部長会議in奄美 紀行報告

J I A九州支部総会が開催される前の週、5月13日(金)～15日(月)にかけて、鹿児島県奄美大島にて全国支部長会議が2泊3日で開催されました。

松山支部長が全国の副会長に就任されました。本部での活動がよりしやすくなってより活躍してもらうため、九州支部の活動にもよい影響を受けられるよう応援に行って来ました。佐藤会長、森副会長をはじめ全国から18名の支部長及び理事の皆様を迎えるため、松山支部長、宮崎地域会長をはじめ支部及び鹿児島地域会の執行部10名と共に行って来ました。

全国津々浦々から、多忙な方々が集われるとあって、スケジュールは多岐に渡りましたので、メインの事業を中心に報告させていただきます。

初日、我々は福岡空港からと鹿児島空港からに分かれて奄美へ向かいました。7時の飛行機に乗るべく、小倉出発は5時10分です。眠い目を擦り、ウトウトしていると奄美大島の綺麗な海が一面に広がって来ました。奄美を訪れるのは、2018年12月に開催された九州支部大会に参加させていただいて以来ですので4年半ぶりになります。当時一緒に参加させていただいた九州支部の会員の皆さんとの楽しかった思い出が頭をよぎり、期待に胸を膨らませて空港に到着すると松山支部長が迎えに来てくれていました。前乗りして準備をされていたそうです。私とは比較にならない多忙なスケジュールの状況下でこのホスピタリティの高さに頭が下がると同時に、ウチの支部長であってよかったなという思いと、我々も頑張って支援をという気持ちが高まりました。複数のレンタカーを借りて分乗し、近くの御実家へ向かい御両親に挨拶の後、寛がせていただきながら準備会議と資料類の袋詰め作業等を行いました。

その後、続々到着される理事の皆さんを空港で迎え田中一村の美術館へ。明治41年に栃木県で生まれた一村が奄美に魅せられてこの地で活動を続けたが、生前は評価されず厳しい生涯をこの地で過ごしたが、没後に高い評価を得て作品が展示されていますが、奄美の

松島 逸人 (九州副支部長)



自然を描写した作品の数々に、これからはじまる奄美での会議に期待が高まります。

その後、松山さんが設計されたきよら海工房で昼食。テラスで、目の前に広がる綺麗なビーチを皆で眺めながら、全国から集まられた理事



きよら海工房テラスにて

の皆さんがこの地での再会を喜ばれていました。

その後名瀬の市街に向かいチェックインの後、支部長会議が開催されました。その中で、奄美におけるJ I Aの活動報告がなされたそうです。私は、夕方到着する方々を空港へお迎えに行くため、ここでの詳細は把握できていないので割愛させていただきます。

夕食は支部大会でも御世話になった吟亭にて懇親会&翌日の踊りのレッスンです。経営する支部長の叔母さんと姪っ子さんの唄と三味線に



吟亭にて踊りのレッスン

乗って、オジサン達も汗だくになりながら踊るのですが、皆なんかとても楽しそう……。その後二次会へ続くのですが、ここで「勝手にしやがれ事件」が(笑)。詳しくは参加者の皆さんから又の機会に是非。こうして奄美での夜が更けて行くのでした……。

翌朝、福岡から佐藤会長も合流。貸切バスで奄美の建築見学ツアーへ。最初に奄美で目覚ましい活動をされている酒井会員が設計された「戸口の家」へ。海へ傾斜した丘に建つ住宅なのですが、近年迄未開の地だったエリアが、希望者達が自らインフラを整備し、

抜群のロケーションの中で住まうエネルギーとその豊かさを肌で感じさせていただきました。アトリエ天人の出身でもあり、完成度の高さは折り紙付きです。

その後、松山さんが設計された「みんなの診療所」へ。九州建築賞や日事連建築賞等も受賞し、建築誌で見た方も多と思います。私も今回の奄美行きで楽しみにしていた事の1つです。奄美の風土に適合させた低く構える建築ですが、受付を持たないそのプランと運営システムの思想と処理も抜群の建築でした。全国で活躍される先輩会員の皆さんと同じ建物を見て体験させてもらいながら、色々な知見をシェアしてもらえ、J I Aが持つ最高の時間をいただいて来ました。



みんなの診療所の前で集合写真

その後、お昼は奄美名物の鶏飯を皆でいただき、ここからしばし観光へ。最初に「大島紬村」へ行って伝統産業を体験してもらい、御約束の「ハブと愛まショー」(笑)。ここの面白さは前回は楽しませていただきましたが、名人芸です。

その後、福岡地域会の村上さん設計の奄美滞在型リゾートを見学へ。プライベートビーチを持つロケーションの地に建つ一棟貸の宿泊施設です。世界遺産にも登録され、益々注目される奄美の地において、このような施設が人気である事、新たな発見でした。



公民館にて皆で昨夜の復習

松山支部長の御実家である「父母の家」を皆で自由に見学させていただいた後、今回のメインイベントである地域交流の時間です。松山支部長出身の集落

の公民館で、地元の皆さんに盛大な歓迎をいただき、昨夜のレッスンの成果を発揮していただく処です。バーベキュー大会に続いて島踊りを、集落の皆さんと一緒に何重もの輪になって踊らせていただきました。心地良い南風を肌で感じながらの優しい音色、至福の時間を共有させていただきました。



地域の皆さんと交流中

早くも最終日です。朝は近畿支部の北條さんが手掛ける港湾倉庫をシェアオフィスにリノベーションした施設を見学。その後は3チームに分かれて行動。我々は地元の酒井会員の案内で金作原原生林へ行き、シダ植物の茂る奄美の原生林を散策させていただきました。午後は、前日のみんなの診療所の院長先生の御自宅を訪問させていただきました。こちら松山支部長の設計ですが、家族がドアの無い住宅で仲良く暮らす豊かさを拝見させていただきました。そのまま同じく、松山支部長設計の一棟貸の宿泊施設を体験。こちら目からはプライベートビーチ。時間が止まったような楽園でした。

皆、各地へ飛行機の時間に合わせて帰路につき、我々も最後、皆さんを見送ってから沢山の経験と思いの出を詰めて、自宅へ向かいました。因みに、松山支部長、佐々木(寿)副支部長、酒井会員の3人は残り、もう一日、佐藤会長をアテンドされたそうです。

皆さんお疲れ様でした。



金作原ツアーで手つかずの大自然へ

## 大分の若手建築有志「+A(プラスエー)」



重田 信爾（大分地域会）

大分に「+A（プラスエー）」という若手建築有志の団体があります。今回は、その+Aについてご紹介いたします。

### 【+Aとは】

大分県にゆかりのある若手建築有志で構成された団体です。その構成メンバーは、意匠・構造・設備などの設計者、施工者、デザイナー、学生、等…と幅広く、建築に興味や志のある方であれば参加できます。2005年12月に設立され、現在は37名のメンバーが参加しています。

### 【+A設立のきっかけ】

大分の雑誌社による「おおいたの建築家の本 vol. 2」の発行（2006年3月）に、JIA大分地域会（当時の地域会長 衛藤元弘会員ら）が協力していました。その書籍発行のタイミン



おおいだの建築家の本vol. 2

グに合わせて、掲載者らによる建築パネル展を開催することとなり、2005年12月にJIA大分地域会会員、他の事務所スタッフ4名がその実行委員として選出されました。これが+Aのスタートとなっています。その準備を進める中で実行委員メンバーも増え、2006年3月のアートプラザでの建築パネル展開催時には10名ほどとなりました。そして建築展終了後、その企画名でもあった「+A」を名称とし、その団体活動を開始しました。ちなみに、最初の4名で最年長だった私、重田が初代代表を仰せつかりました。

### 【+AとJIA大分地域会】

前述の建築展の際、実行委員（後の+A）に対して、JIA大分地域会から多くのアドバイスやサポートがありました。当時の大分地域会は、若手との協働やサポートで大分が活性化されること、若手同士の横のつながりができることなどをイメージし、最終的にそれが若手の育成につながれば何よりだとの考えか



+A 建築作品展（2006年3月）

ら、+Aへの継続的サポートを実行されたと聞いています。

現在も、+AとJIA大分地域会は協力団体の関係を継続しており、当時から大分地域会の下部組織ではなく、JIA準会員・ジュニア会員・学生会員でもない別団体です。具体的には、大分地域会で事業実施の際には+Aから協力を頂き、+A事業等に対しては大分地域会からサポートをしています。またJIA建築家大会や支部大会などの際には、大分地域会会員の同行者として参加することもあります。なお、+AメンバーがJIAに入会した際に、+Aを退会することが基本的なルールとなっています。

## 【+Aの活動】

+Aは様々な活動に取り組んでいます。JIA関連活動と+A単独活動に分けて、その一部をご紹介します。

### <JIA関連活動>

○大分地域会例会企画参加や九州支部大会等同行

+Aメンバーのスキルアップの機会として、希望者が参加しています。

○大分地域会事業協力

大分地域会企画・実施事業で、準備や運営に協力・協働しています。主なものは…

### 2006年「+A建築作品展/県内巡回展」

県内4ヶ所で開催。企画～運営まで+Aが対応。



+A 建築作品展／県内巡回展 日田市（2006年10月）



+A 建築作品展／県内巡回展 豊後高田市（2006年12月）

### 2008年 「大分建築展「間<sup>3</sup>」 九州建築展」

アートプラザ内の会場構成、準備等の対応。+Aからも作品出展。



大分建築展「間<sup>3</sup>」・九州建築展（2008年）

### 2009年 「九州支部大会in大分 建築展「間<sup>3</sup>／竹町商店街」エクスカージョン等」

建築展を中心に、準備・運営等、大分地域会の手伝いで対応。建築展には+Aからも出展。



建築展「間<sup>3</sup>／竹町商店街」（2009年）

### 2017年 「建築パネル展・堀部安嗣氏講演会」

講師選定のアンケート参加。準備、運営等対応。+Aを対象にリーフレットデザインコンペ実施。建築パネル展には+Aからも作品出展。

## ＜+A単独活動＞

### 「+A labo」

JIA大分地域会会員やその他の+Aメンバー以外を講師とした講演会です。



リーフレットコンペ表彰（2017年）



+A-laboの様子

### 「+A mini-labo」

+Aメンバーを講師とする勉強会です。多様な構成

メンバーですので、内容は多岐に渡ります。

### 「+A INOUT N」

いろいろな人の意見を“IN、”して自分自身の意見も“OUT、”する場として企画されたものです。具体的には、+Aメンバー内で、建築雑誌（新建築最新号等）を用いて、その感想や意見交換などを行っています。

### 「+A UNBUILT」

+Aメンバーが取り組んだものの、実現しなかった作品の紹介です。

### 「+ROOM」

コロナ禍に生まれた活動で、オンライン（ZOOM）での+Aメンバー同士の情報交換会です。

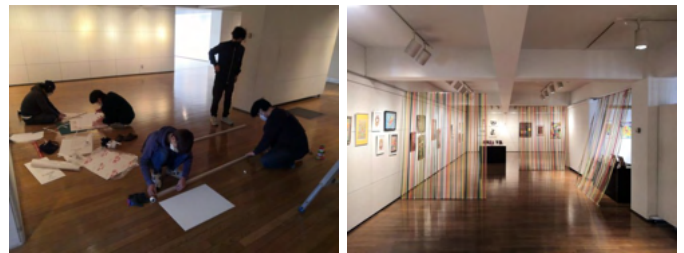
### 「コブスル建築MAP」

大分県内の建築を、+Aメンバー自らが取材して、WEB上に取りまとめたMAPを作成しています。

## 「他事業への参加協力」

U40建築展などに+Aとして参加・協力しています。

なかでも、2017年から取り組んでいる「元気の出るアート！展」の会場構成については、+Aが主催者から委託を受け、企画から撤収まで行っています。



「元気の出るアート！展」準備・完成（2022年）

## 【これからの+AとJIA】

+A設立から17年が経過し、さらにここ数年のコロナ禍もあいまって、+A活動の取り組み方やJIA大分地域会との連携の面などに、元+A代表としては課題や可能性を感じています。とはいえ+Aは、これまでの活動実績の上に、年齢構成などの代謝も自然とできており、何より若い方たちのパワーを見る限り期待しありません。

設立時からJIA大分地域会が応援してきた+Aですが、現大分地域会会員21名のうち8名が元+Aメンバーです。結果的に、+Aが大分地域会による若手育成の一助として機能していることとなります。

JIA大分地域会としては、そんな+Aと、よりコミュニケーションを取りながら、今後も協力体制を継続・発展していきたいと考えています。

### 初めての支部大会、建築塾の思い出（2007年6月）



石川 幸男（鹿児島地域会）

地域会代表の宮崎氏よりJIA広報誌、九州ブルテンに載せるので鹿児島地域会から「あのこと」というテーマで思い出話しを書いて欲しいとの依頼が来ました。どうしたものかと迷っていたら、今年、鹿児島の指宿で建築塾の開催があると聞いて以前、鹿児島でやった建築塾の事を思い出し、それなら書けるかなと思いつきました。

調べてみると、鹿児島で初めて行われた建築塾は2007年で九州支部大会と合わせての開催となっていました。今年の指宿での建築塾は、16年振りの開催という事になります。

当時の実際の流れは支部大会の半年前に実行委員会を立ち上げ準備を始めました。大会テーマについては景観についての声が大きくなってきており、2004年に国が制定した景観法に掛けて「景」に定め、予算書の作成、支部大会、建築塾の会場探し、大会の目玉は何にするか、レセプションはどうするか、誰を呼ぶのか等、やらなければいけないことが一度にスタート。私は徹底して裏方に回り準備作業に走り回る事になりました。

会場で配るリーフレットは自前で作る事にしました。会場が支部大会、建築塾、レセプション会場と分かれていたので三つ折りにして持っていける少し厚い紙を選定し、中身の情報のまとめやマップ作りは、慣れないパソコンソフトのイラストレーターを使って作

り事務所で印刷し三つ折り作業は、下山氏、藤崎氏との共同作業で本当の手作りの物となりました。



手作りのリーフレット

支部大会の会場はかごしま近代文学館ホールで、大会当日は支部長の井上福男氏の挨拶で始まり、来賓挨拶では当時のJIA会長の仙田満氏。建築塾公開講座として第一部の基調講演は建築家の藤本昌也氏で「私の景観デザイン作法」の話をして頂きました。第二部のパネルディスカッションではコーディネーターに当時、鹿児島大学教授の安山亘之氏。パネラーとして「かごしま探検の会」の代表理事、東川隆太郎氏、環境教育事務所「くすの木自然館」を設立した浜本奈鼓氏、建築塾の講師でもある松岡恭子氏、そして基調講演をして頂いた藤本昌也氏にも入ってもらい「景・さつまのかたち」について語って頂きました。一般市民も多数参加する大きな会になりました。

支部大会が終了すると次のレセプションの開催時間に間に合う様に鹿児島会の会員で会場の机、椅子、ステージの片付け。展示していた建築パネルを撤去し移

動間仕切り壁の収納とバタバタの大急ぎの作業。

レセプションの会場はいつも鹿児島地域会が使っていたホテルでの開催。最初に島津義秀氏の薩摩琵琶の演奏から始まり、県建築課長、市建築部参事、鹿児島建築士会会長の祝辞と続き、支部長の井上福男氏の乾杯で歓談が始まりました。建築塾の塾生紹介や各地域会からの焼酎差し入れもあり、焼酎の原料当てクイズと酒宴が盛り上がり最後まで楽しい夜となりました。

鹿児島地域会活動の中でこんなに多くの参加者、著名人、役所の人が集まって開くイベントは初めてでJIAという会の大きさにも再確認する事でした。

建築塾については、福岡、大分、熊本、鹿児島から学生3人、社会人3人の6人の塾生となりました。

当時の建築塾はA・Bユニットと2回に分けて行い、泊りがけでテーマについて作品を作っていくスタイルだったと記憶しています。

建築塾の開催場所は深夜まで作品作りの作業が出来て、寝泊りが出来る場所を探すと支部大会の会場の近くになくて県立短大隣の鹿児島県青年会館・艸社という場所を教えて貰い準備を進めていきました。

講師はJIA福岡地域会会員の松岡氏、水野氏と宮崎の建築家の岩切平氏にお願いしました。自然の竹を加工して作品を作るという課題に対して塾生達はそれぞれ



建築塾作業写真

試行錯誤しながら作業を進めていく事になりました。

塾生への食事も地域会会員の手作

りカレーで、夜の制作活動が終わると地域会会員や講師も塾生と一緒に加わり恒例の深夜までの車座になっ



建築塾夜食風景

での建築談義になりこれが建築塾の醍醐味と感ずる事でした。

塾生が前日、徹夜して制作した作品は支部大会会場に持ち込み会場入口横に展示しておき来場者に紹介する事が出来ました。

今年是指宿で建築塾が開催されます。今回も若い塾生の参加で盛り上がる事と思います。建築塾が塾生にとっても良い思い出になるでしょう。

最後に建築塾を解散し塾生を送り出した後の、当時の実行委員長で鹿児島会代表だった上鶴氏の無事に終わってホットした顔を思い出します。



解散前の集合写真

振り返るとその上鶴氏も、夕食のカレーを作ってくれた吉永氏も、支部大会のパネルディスカッションでパネラーと議論をかわした揚村氏ももうJIAを引退されています。つくづくと時間が経ったのだなと改めて感じる次第です。

## スペイン旅行の記憶を辿る

私自身、大学生のころ授業の一環で行った中国の大連と研究室のゼミ旅行で行った韓国の釜山と半ば強制的に海外旅行に行ったことがありましたが、海外旅行には興味がない中で、初めて自分自身で行こうと決めたのが5年前に新婚旅行で行ったスペインでした。

妻も建築系の業種のため、やはり建築をやるものとして一度は行っておくべきだろうと2人とも義務感に駆られたように決めたのでした。

1日目は移動、2日目にバルセロナにてガウディ建築を巡ります。まずは王道サグラダ・ファミリア。建設が始まった時代から現在まで、建築技術やデザインの進歩が著しい中で外観から見上げたタワークレーンがその時代の技術や工法を取り入れながらも己の美学を追求するガウディの思想を物語っているようでした。内部も光と色彩の効果を駆使して神聖な雰囲気を演出しており、涙が出そうなくらい感動しました。その後、グエル公園へ。グエル公園はトカゲのモザイクやドラゴンの像など、ガウディを象徴するデザインを楽しみつつ、公園全体が自然の一部であるかのような



サグラダ・ファミリア内部

雰囲気を味わいました。カサ・ミラ、カサ・バトリョは通りすがりに外観から見上げる程度でしたが、個人的にはグラシア通り沿いにある建物の中でどこか近未来的な印象を受け、仮に現代に生み出された建物でもきっと



古賀 隆寛（佐賀地域会）

前衛的な建物として後世に語り継がれる建築になるのだと確信していました。

3日目はグラナダへ。世界遺産のアルハンブラ宮殿を巡りました。世界遺産にも関わらず、手入れが行き届いた庭園が広がっていたというおぼろげな記憶程度で実はアルハンブラ宮殿の記憶はあまり残っていません。具体的にこれがすごかったというのは無かったのは、全体的な雰囲気を楽しんでいたが故なのかもしれません。

4日目はミハスへ。この日は非常に天気が良い、ミハスの白い街並みとスペインの快晴の空を一望できる欲張りセットを堪能できま



ミハスと青空

した。ウィンドウディスプレイが、白いキャンバスに描かれた絵画のように自然と引き込まれる雰囲気を醸し出していました。

5日目は朝からコルドバの世界遺産、メスキータへ。キリスト教としての大聖堂とイスラム教としてのモスクを融合したこの建築ですが、やはり円柱の森に存在する赤と白のアーチの配色が鮮明に記憶に残っており、個人的にはイスラム教の印象を強く受けた建築でした。その後コルドバを離れ、コンスエグラの風車群へ。風車群はまるで帽子をかぶったようなかわいらしい建物とそこに設置された大きな風車のアンバランスさが面白く、時間を忘れてひたすら写真を撮っていた



たと思います。

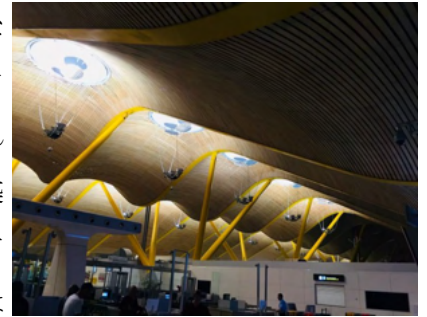
6日目はトレド大聖堂へ。このスペイン旅行で最も衝撃を受けたのが、このトレド大聖堂でした。内部の圧倒的な装飾は開いたが口がふさがらないという言葉の通り、装飾を見上げたまま嘖然としていたのを覚えています。その装飾の繊細さにむしろちょっと引いてしまっていました。おそらく、その装飾が作られる過程を勝手に想像してしまっていたのだと思います。サグラダ・ファミリアを筆頭にガウディ建築を体感できたのも嬉しかったのですが、このトレド大聖堂は最もスペインに来てよかったと思う建物でした。



トレド大聖堂の主祭壇

7日目は帰路へ。帰りはマドリードのバハラス国際空港からの出発でした。第4ターミナルからの出発だったのですが、リチャード・ロジャース設計のこのターミナル上部のR形天井が印象的でした。最終日に

この天井を眺めながら、初日のガウディ建築に見られたうねうね建築（勝手に名付けていますが…）ではじまり、最後もうね



バハラス国際空港のR形天井

うね建築で終えたスペイン旅行だったと物思いに更けて旅行を終えたのでした…と言いたいところでしたが、最後の最後に搭乗手続きでトラブル発生。

搭乗の際、どうやら私の飛行機の座席が避難口横の座席だったようで、緊急時のために英語でのコミュニケーションが可能な人である必要があり、現地のグラウンドスタッフに英語でベラベラと何かを話されていたのですが、いかんせん英語がほとんどできない私があたふたしていると「NO」と一言言われた後、私だけ座席の移動が必要になり、新婚旅行にもかかわらず当初は隣の座席だった妻と席を離されたまま帰路に就くという…まあ、夫婦そろって元気に帰って来れたということで良しという事でしょうか。そもそも英語ができない私が悪いのですが…。

次回、海外に行くことがあるのか今はまだわかりませんが、このスペイン旅行はきっかけとしては新婚旅行でしたが、今まで旅行も国内志向だった私がもう少し世界に目を向けてみようかと思う機会になったと思います。これだけでも私の人生では少なからず財産になっているのではないのでしょうか。



八反田 淳一 (鹿児島地域会)

この度、JIAに入会しました八反田淳一と申します。事務所を開設しまして38年になります。建築家としてお客様の夢を実現するために、プレゼンテーションの充実と誠心誠意のお手伝いを基本方針としています。常に新しい試みにチャレンジし、建築計画の支援を通じて特に最近では食品の安全に対する提案（HACCPのコンサル）も同時に行っています。私の設計においては、デザインと機能の両方を兼ね備えた「機能美」を追求

し、土地の特性を理解し、建築の中に溶け込ませる計画を心掛けています。建築主の夢や希望を実現するために、建築される敷地や環境の特性を正しく活かし、良質な建築を設計しています。建築の外観が地域や都市の景観に影響を与えることを考慮し、建築主のイメージだけでなく、都市全体の景観を考えながら設計に取り組んでいます。また、私は建築家として地域社会の発展に寄与するために、コミュニティ活動を促進し、地域貢献を行います。地域貢献活動の重要性を認識し、地域の発展や持続可能なまちづくりに向けた活動やイベントに参加し、地域住民や関係者と協力して地域の課題解決に取り組めます。地域の特性や文化に配慮しながら、建築プロジェクトを進めることで、地域のアイデンティティを尊重したまちづくりを実現します。私は機能性とデザインの両面を追求し、人と環境をつなぐ場所としての価値を持つ建築を創造しています。また、地域貢献活動への情報提供も重要です。建築家としての視点や専門知識を活かし、地域のニーズや課題に対して適切な情報を提供します。地域住民や関係者に対して、建築に関する専門知識や技術を提供し、地域の発展を支援します。建築家は地域のプロジェクトに参画し、建築的な視点や技術的なサポートを提供することで、地域の発展を支えます。これから皆様との交流から多くのことを学ばせていただきたいと思います。宜しくお願い致します。



「芝浦電子工業本社新築工事」

## デザイン力と家具職人の技が生み出すオーダーキッチンが暮らしを変える

## 「買うキッチンから造るキッチン」の提案

宮崎県三股町に本社を置くリブレ株式会社は、国内では数少ないオーダーキッチンの専門メーカーです。「キッチンが家族が集う場所。毎日使う場所だからこそ、その人らしく、使いやすく」という思いで、昭和60年6月に設立しました。

キッチンメーカーの営業として長年勤めながら、欧米ではキッチンが家具のようにとけ込んでいる様子を見て、日本でも量産品を据え付けるキッチンではなく、好みや機能性、ライフスタイルに合わせて“造る”キッチンを提案したいと考えるようになりました。

リブレのキッチンは世界中の優れた機器や素材を組み合わせて、どのようでも自在に造ることができます。それでいて、びっくりするほど価格が違うわけではないのです。一生使うキッチンが、楽しくなればこんなにいいことはありません。リブレはお客様のご希望に合わせたライフスタイルの提案をします。機能性を充実させ自分の好きな気持ちを形にしたら、素敵なキッチンができあがります。

15年前に福岡市にも念願のショールームを設けました。三股本社のショールームにも、遠くからも足を運んでくださいます。ショールームのオーダーキッチンを見ていただければリブレの魅力をわかっています。

## 技術をルール化して、デザインをプラス

キッチンの要素は、デザイン、機能性、使い勝手の3つ。その中で弊社は「デザインの力」を重視します。街を魅力的にすることも、人を育てるセンスもデザイン。家の中でキッチンがすぐれたデザインを持つ空間になれば、愛着もわくし、大事にする。家族のコミュニケーションもよくなります。実際に、家族の暮らし方が変わったとの嬉しい声もいただきます。キッチンが料理を作るだけの場所から、くつろぎや作る楽しさを与えてくれる場所になれば、きっと生活の概念は変

東郷 彰（宮崎地域会協力会）



わります。

そんなソフト面の提案に加えて、使い勝手のよさ、長く使える品質をプラスしていきます。10年でも20年でも美しく清潔に使える天板、世界の木材を生かした扉板、機能的でデザイン性にも優れた水栓、収納を全てビルトインにして家具のように洗練されたレイアウトに仕上げるなど、組み合わせは自由です。それを仕上げるのは、都城で伝統的に培われた家具づくりの技術で、当社の工場ではベテランの家具職人が腕をふるいます。ひとつひとつのパーツを正確に作る技術はまさに家具づくりと同じで、デザインと熟練の技があってこそそのオーダーキッチンとなります。

しかしながら「どんなに美しいキッチンを造っても私たちは芸術家ではありません。ひとつ仕上げで満足する訳ではないのです。ひとつひとつ異なるオーダーメイドの中から、培った技術をルール化して、さらに良いものへ高めていく。そうして、またお客様に喜んでもらうキッチンを提案する。それが私たちの仕事です。」

キッチンは買うものではなく、自分らしく造るもの。私たちはこの魅力で今後もたくさんのファンを増やしていきたいと考えています。

（リブレ株式会社）



報告事項			
③ <常設委員会> 活動報告			
1	総務委員会	下山道男	苦情対応WG:川津悠嗣 知財WG:佐々木 信明
4/7第9回委員会 ・入退会審査（資格喪失（確定）について）・表彰委員会からの依頼について・広報委員会WG設置について・熊本地域会ジュニア会員会費について・東北支部および中国支部準会員・協力会員入会申込書について・準会員・協力会員の会員証について 5/11第10回委員会 ・入退会審査・沖縄支部より照会のあった入会基準について（施工を行っている場合について個人協力会員を進める）・関東甲信越支部および四国支部 支部規約改正について・四国支部準会員・協力会員入会申込書について・2023年度委員会構成について・オンライン入会の手法検討について			
苦情対応WG： 報告事項なし			
知財WG： 報告事項なし			
2	財務委員会	作田耕一郎	
報告事項なし			
3	職能・資格制度委員会	佐々木 信明	
登録建築家について本部理事会懇談会で協議中			
4	業務委員会	前田哲	建賠WG:田中康裕
報告事項なし			
5	広報委員会	川津悠嗣	支部は川津悠嗣、有吉兼次
4/4 5/9本部広報委員会、5/2本部広報リーフレットWG、ブルテン6月号準備中			
6	教育委員会	田中康裕	
報告事項なし			
7	国際委員会	水本浩二	
・4/19 第1回国際委員会 （委員会構成、JIA大会常滑IPF、ACA20 Student Jamboree、IAI表敬訪問ほか全9議題） ・5/10 JIA常滑大会IPF準備会議			
8	CPD評議会	田中康裕	
4月28日委員会開催			
9	建築家資格制度実務委員会	佐々木寿久	
登録建築家について本部理事会懇談会で協議中			
報告事項			
④ <全国会議> 活動報告			
1	JIA環境会議	古森弘一	伝統的工法のすまいWG:古川保 気候変動対応WG:福田展淳
報告事項なし			
2	JIA保存再生会議	柴田真秀	別添資料
八代厚生会館 4月14日にJIA熊本地域会から要望書を提出。その時点では、市長は解体のするとは言っていなかったため、コンサートホールの活用の要望にしております。 要望書の提出の折は、地元の新聞社に取材してもらいました。 またこの要望書は、地元のホールの「再開を求める会」とは協議の上です。 それがトリガーになったのか、4月27日に八代市は解体の発表をしました。 要望書、新聞記事添付。			
2-2	JIA保存再生会議 文化財修復塾	鉢坂徹・下山 道男	
4/12第10回会議 ・各支部の活動と今後予定・3/26船の体育館講演会・大條家茶室 修復プロジェクト・JIA-HAサロン開催（4/29）・第9回 総括講座の開催（5/13）・2022年度の事業報告・収支報告・座学講座ビデオ公開とテキスト作成・今後の修復塾について（来年度体制：塾長田島さん）			
2-3	JIA保存再生会議 近現代建築物緊急 調査ユニットWG	松島逸人	
報告事項なし			

3	JIAまちづくり会議	松島逸人	
報告事項なし			
4	JIA災害対策会議	林田直樹	
4/26災害対策シンポジウム「復興の事前準備を考える」開催 ユーチューブ配信は希望者にアドレスを送る5/8~6/15			
5	JIA建築相談連携会議	有吉兼次	
報告事項なし			
5-2	JIA九州支部建築相談委員会：	有吉兼次	
4月1日から5月10日は下記の相談対応を行いました。 ○4月17日 宮崎 一般 既設のブロック擁壁に関する相談			
6	住宅等連携会議	佐々木寿久	
報告事項なし			

## 報告事項

### ⑤ <その他>

1	全国学生設計コンクール実行委員会	田中康裕	
4月18日委員会開催			
2	職責委員会	松山将勝	
報告事項なし			
3	懲戒審査委員会	佐々木 信明	
臨時理事会4月19日開催			

## 報告事項

### ⑥ <特別委員会> 活動報告

1	オンライン_リモート対応や環境整備に特化した特別委員会	村上明生	
報告事項なし			
2	カーボンニュートラル特別委員会	古川保	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「JIA2050年カーボンニュートラルへの提言」は4月17日に会員に配布予定。応募者は44編だったとのこと。</li> <li>その後、「カーボンニュートラルの樹」を立ち上げ、会員の議論の場としたい。</li> <li>・カーボンニュートラル委員会は6月で解散する。</li> <li>・下部のLCNワーキングは非住宅と住宅に分けて議論を行っている。非住宅WはLCAマニュアルを作成。住宅WはLCAを省エネ法の中に入れる政策提言を行うための準備を行っている。</li> <li>・カーボンニュートラル連続セミナー15回を公開最終編集</li> </ul>			
3	UIA国際マニフェスト・リレー特別委員会	下山 道男	
特別委員会は解散しています			

## 支部事業委員会報告

### 教育支援委員会

1	建築塾WG	佐々木寿久		
	報告事項なし			
2	デザインレビューWG	池浦順一郎		
	報告事項なし			
3	DR高校生レポーターWG	重田 信爾		
	報告事項なし			
4	建築家派遣 (エコルサポート)	福田 哲也		
	報告事項なし			

### 活動支援委員会

1	収益事業WG	川津 悠嗣		
	報告事項なし			
2	JIAサポートWG	川津 悠嗣		
	報告事項なし			
3	木活 (モクカツ) WG	松島 逸人		
	報告事項なし			
4	25年賞WG	下山 道男		
	報告事項なし			
5	九州建築新人賞WG	松山 将勝		
	報告事項なし			
6	ケンバイWG	田中 康裕		
	4月25日委員会開催			

## 編集後記

紫陽花の季節ながら初夏の日差しもみられる今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

6月号も執筆を快く受けていただいた皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

オピニオンはJIA建築家2023大会実行委員長の浅井さん（東海支部）に今年の11月愛知県常滑市で開催される建築家大会（全国大会）をご紹介いただきました。「環る」をテーマに地域だからこそできる「小さくて大きな大会」を目指し、会員みんなでつくりあげ、開催地との関わりが深くなる仕掛けなど新しい試みが大変楽しみです。次世代の建築家大会のあり方を一緒に楽しみながら盛り上げていければと思います。来年の建築家大会は九州支部がホストで開催されます。東海支部の熱量を引き継ぎ、ゲストをおもてなしできればと思います。「通常」のこゝろを行うことが難しい3年間でした。普通の日常があたり前ではないことに気付かされ、感謝する機会が増えたような気がします。今年度の支部長の思い、事業計画や地域会自慢で盛り上がった会員集会、懇親会の様子を臨場感・親近感のある文書で佐々木さんに執筆いただきました。松島さんに全国支部長会議の様子を紀行文として執筆いただきました。奄美の自然と人の暖かさが支部長同士の繋がりが深まったのではないのでしょうか。エクスカッションや「勝手にしやがれ事件」も気になるところです。大分地域会の自慢でもある若手建築家有志団体「+A」を重田さんに紹介いただきました。若手の多岐に渡る積極的な活動に感心し、活動しやすい環境をつくりだすことも私達の使命の一つだと思います。「あゝこゝろ」では16年前2007年の鹿児島にて開催された支部大会、建築塾について石川さんに執筆いただきました。手作りで行う準備の大変さや深夜の建築談義の楽しさ、手作りカレーの優しさが伝わってきます。16年前と社会情勢が大きく異なりますが塾生たちの建築に対する情熱は変わらないはずです。今年度、再び指宿での開催楽しみです。「よかもん」では佐賀地域会の古賀さんにスペイン建築新婚旅行を紹介いただきました。建築家視点の写真とわかりやすい文章でガウディからトレド大聖堂までバーチャルツアーを楽しみ、多様なスペインの建築文化を教えてくださいました。旅は人生に豊かさをもたらす宝物（財産）に共感いたします。「わさもん」では新入会員の八反田さんにご自身の作品紹介も兼ねて自己紹介を執筆していただきました。今年度より対面事業は通常どおり開催予定です。これからよろしくお願いたします。「協力会つうしん」は宮崎地域会協力会の東郷さんに執筆いただきました。いつもご協力いただきありがとうございます。今年度も表紙デザインを専門会員の森山百合香さんにデザインしていただきました。デザインテーマである揺らぎやリズムミクな不統一感も建築言語の一つだと思います。未来への上昇や様々の会員が所属するJIAで結束が強まっている九州支部も評しているように感じました。今年度も支部の活動を分かりやすく伝え、会員同士の繋がりを感ずることができる魅力ある誌面作りに務めてまいりますので何卒よろしくお願い申し上げます。

広報副委員長 有吉兼次

